

林産物加工施設における改善措置の内容及び進捗状況

1. 当初計画

<概要>

- (1) 実施年度 平成30年度（令和元年度繰越）
 (2) 事業名 木質バイオマス利用施設整備事業
 (3) 施設概要 木質バイオマス供給施設
 (4) 事業目的
 木質チップの製造施設を整備することにより、豊富な森林資源の有効活用や地域内の雇用機会の創出を図り、地域の活性化につなげる。
 また木質チップ等の原料となる林地残材を搬出して活用し、森林整備を進めることにより災害に強い山林づくりを進める。
 (5) 事業目標

表1 計画当初における年度別事業目標

	R2	R3	R4	R5	R6 目標年度
木質チップ販売量 (m ³)	2,322	2,709	3,096	3,483	3,870
施設の効率性 (m ³ /千円)	0.06	0.07	0.08	0.09	0.10

※施設の効率性：木質チップ販売量m³/事業計画時の事業費42,741千円

<令和2年度事業実績>

- (1) 木質チップ販売量 412m³ (達成率 18%)
 (2) 施設の効率性 0.01m³/千円 (達成率 17%)

2. 事業目標の達成率が低位となった要因分析

(1) 貯木場の不足

当初計画時に借りる予定であった貯木場1カ所（1,000m²、原木約1,200m³分）について、事業開始直前になって賃貸の金額が折り合わず、所有者の都合により断られたため、他の貯木場として使用できる土地を探して交渉したが、結局借りることができなかった。

そのため、貯木場は施設の空きスペース（50m²、原木約75m³分）のみとなり、木材が多く伐出される時期に必要な量を買収貯めることができなかった。

結果として、予定していた受入量2,322m³に対して562.5m³（約2割）の実績となった。

表2 年度別原木調達量の当初計画と実績

	R2	R3	R4	R5	R6 目標年度
当初計画 (m ³)	2,322	2,709	3,096	3,483	3,870
実績 (m ³)	562.50	350.00	-	-	-

(2) 人材（人員・経験等）の不足

当初計画では、木質チップの製造について、チップパーへの木材の投入という単純作業を想定していたが、実際には直径15cm以上の原木は曲がりや枝部分の凸凹で詰まってしまうため帯鋸で15cm以下に細断しチップパーに投入しなければならず、製材が必要であることが判明した。

事業開始までに帯鋸を購入し機材は事業開始に間に合ったが、施設の運営にあたり雇用した2名の従業員は製材業務の未経験者であったため、技術等の不足により稼働後直ぐに業務に対応できなかった。

また、メーカーによるとチップパーの最大処理能力としては直径22cmの原木を1時間で5m³（原木ベース）チップ製造できるが、前述の理由により原木の細断に時間を要し、1日の処理量が10m³、施設の効率性が0.01と低位となった。

3. 経営改善計画

木質チップ販売量や施設の効率性の向上を図るために、生産体制の効率化を目指し、貯木場の確保、製造ラインの改善や勤務体制、原木の安定調達を計画的に実施する。

表3 改善措置後の年度別計画量

	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8 目標年度
木質チップ販売量 (m ³)	1,812	2,263	2,710	3,200	3,870
施設の効率性 (m ³ /千円)	0.05	0.06	0.07	0.08	0.10

※施設の効率性：木質チップ販売量m³/事業完了時の事業費 39,999 千円

4. 取り組み内容

(1) 貯木場の増設

森林の伐採時期に必要な原木を購入するために、当施設の周辺で新たに1,600m²の広さで、約1,800m³の貯木可能な用地を確保する予定(R4.4月)。このことにより現在使用している貯木場75m³と合わせて約1,875m³の貯木場を確保することで、伐採時期に影響されることなく年間を通じて安定した木質チップの生産を行う。

(2) 人材の育成等

OJT研修により技術向上に務めており、さらに技術・安全講習を定期的を実施し、従業員のスキルアップを図る。また、施設の稼働率を上げるためにシフトの変更を行い、チップの搬出のための運転手を一部外部委託する。さらなる生産量の増加については新規に従業員を雇用することで対応する。

(3) 原木調達の強化

R3に起こったウッドショックによってR2時点より原木調達が非常に厳しくなっているため、原木調達を強化し、確実に原木を購入することができるよう取り組む。

さらに国有林の整備により搬出される間伐材の受け入れを関係機関に働きかける。

また、林業振興事業効果による木材搬出の増加を見込む。

(4) 収支について

本事業は地域振興を目的として森林整備や雇用の創出等に寄与するものであり、利益の追求を目的としないことから必然的に経営は厳しい。

燃料価格の高騰により光熱費や、輸送にかかる燃料費が増大することから、今後徐々に販売価格の改定を行いたい。

まずは令和5年度に木質チップ1tあたりの販売価格100円の値上げを検討する。

5. 達成状況

表4 施設の利用状況

	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8 目標年度	備考
木質チップ販売量 (m ³)	1,812 2,015 111%	2,263	2,710	3,200	3,870	上段:改善計画値 中段:実績 下段:達成率
施設の効率性 (m ³ /千円)	0.05 0.05 101%	0.06	0.07	0.08	0.10	上段:改善計画値 中段:実績 下段:達成率

※施設の効率性：木質チップ販売量m³/事業完了時の事業費 39,999 千円